下呂農林事務所の普及活動状況　令和６年７月３１日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■農福連携　地域連携会議を開催し、現状・課題を共有

７月 26 日に、下呂福祉会館において、市内の福祉事業者、下呂市社会福祉協議会、ぎふ農福連携推進センター、ＪＡひだ益田営農センター、下呂市福祉部・農林部、下呂特別支援学校を参集し、農福連携下呂地域連携会議を開催しました。

まず最初に、農業普及課から県における農福連携の取組みを説明し、ぎふ農福連携推進センターからは、同センターの概要や各種助成制度、農福連携のマッチングの進め方などについて情報提供がありました。

【連携会議の様子】

その後、各参加者から農福連携の取組みの現状や課題、要望事項などを話してもらい、出席者で意見交換を行いました。

出席者からは、「福祉事業所の実情や課題が理解できた。」「ぎふ農福連携推進センターの助成制度が理解できた。制度が活用できるか相談したい。」「農業側、福祉側の現状が理解でき、非常に良い会議であった。」などの意見があり、「農」と「福」を結びつける有意義な会議となりました。

この会議を通じて、農福連携を前に進めていくには、農業者側が困っていることなどのニーズ把握が重要であることから、今後、ＪＡや下呂市、農業普及課が労働力確保を必要としている農業者情報の収集を行い、次回（11 月）の地域連携会議開催へと繋げていきます。　（地域支援係）

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■下呂市蔬菜出荷組合トマト部会　目揃え会を開催し、技術統一

７月２、３日、ＪＡひだ益田トマト選果場及び竹原集荷場において、トマト部会（会員５４名）の目揃え会が開催されました。

目揃え会では、部会長から出荷規格が変更（Ａ品・Ｂ品のみの規格）されたこと、ＪＡ益田営農センター長からは、新規就農者５名が栽培を開始し、選果場の増強が必要となっていること、ＪＡ全農岐阜からは、2024年問題が懸念される中、県内産トマトは新鮮な状態で消費地へ届けることができており、夏トマトの日（８月８日）の制定など、販売の強化をさらに進めていくなどの情報提供がありました。

【目揃え会の様子】

農業普及課からは、今後の栽培管理について、特に基本管理の徹底、着果に応じた追肥と草勢の維持、病気を出さない管理について指導を行いました。また、就農２年目までの新規就農者支援として、トマト葉柄汁中の硝酸イオン濃度の測定値に基づく栽培指導の取組みについても紹介しました。

農業普及課では、引き続きＪＡ営農指導員と連携して巡回指導や情報共有を行い、夏秋トマトの単収向上、栽培管理技術の向上を支援していきます。　（地域支援係）

■下呂市蔬菜出荷組合ほうれんそう部会　中間目揃え会を開催

７月８日、ＪＡひだＡ－ＰＣにおいて、下呂市蔬菜出荷組合ほうれんそう部会（会員 11 名）の中間目揃え会が開催されました。

目揃え会では、生産者が持ち寄った現物を確認し、大きさや品質などについての目揃えが行われました。また、ＪＡ全農岐阜及びＪＡからは、飛騨ほうれんそう全体の販売状況や情勢報告などの情報提供が行われました。

出席した生産者からは、播種や生育、病害虫の状況などについて情報提供があり、栽培管理や今後の出荷見込などについての意見交換が行われました。

【中間目揃え会の様子】

農業普及課からは、７月の栽培管理として、「ズルケ（葉や茎の折れなどが原因で腐敗がおきる事故品）」をはじめとした事故品対策と病害虫防除を中心に指導を行いました。また、今後も高温傾向が続くことから、熱中症対策として、こまめな水分補給を行うこと、体調が悪くなった時にすぐ連絡できるよう携帯電話を持ち歩くこと、できるだけ一人で作業をしないことなどを指導しました。

農業普及課では、引き続き巡回指導を行い、生育状況を把握し、夏ほうれんそうの生産安定に向け支援していきます。（地域支援係）

■下呂３Ｓシステム研究会　現地研修会を開催し、組織体制を強化

【現地研修会の様子】

７月17日、下呂市萩原町内のトマト３Ｓシステム導入者のほ場において、同システムの導入者及び導入希望者と、中山間農業研究所及び農業経営課の担当者、ＪＡ営農指導員など関係者による現地研修会を開催しました。

まず最初に、中山間農業研究所から直近２か年の３Ｓシステムの試験研究成果と今年度の研究課題の説明があり、現場に活用できる技術内容について情報提供がありました。また、栽培中のトマトを見ながら、生育状況の確認や栽培管理の方法、生産者間で共有すると良い項目などについて助言がありました。

農業普及課からは、トマト３Ｓシステム導入者の組織活動を活発化するため、組織名と代表者及び当面の活動内容を決定するよう提案し、組織名は「下呂３Ｓシステム研究会」に、また、毎週１回栽培の状況（トマト草姿の写真、給排液量など）をグループLINEにアップし、生産者及び関係者で共有することになりました。

今後、農業普及課では、研究会活動が円滑に進むよう支援するとともに、同システムのメリットでもある高単収（目標30トン）が達成できるよう、生育調査や栽培管理データの収集など技術面の支援も行っていきます。（地域支援係）

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■馬瀬ひかり生産組合　良食味米生産に向けた栽培研修会を開催

【栽培研修会の様子】

下呂市馬瀬の馬瀬ひかり生産組合（代表者：山本正道、組合員 13 名）では、冷涼な気候と良質な水を活かし、コシヒカリの栽培が行われています。

収穫されたコシヒカリは、「馬瀬ひかり」のブランドとして販売され、市内の旅館や飲食店で使用されるなど、高い評価を受けています。

７月 10 日には、組合員とＪＡ営農指導員などを参集し、栽培研修会が開催され、各組合員のほ場を巡回し、生育や栽培管理の状況を確認し、今後の栽培管理などについて情報交換を行いました。

農業普及課やＪＡ営農指導員からは、穂肥の時期や施用量の目安、今後の病害虫防除や水管理など、良食味米生産のポイントについて情報提供しました。また、昨今、農作業事故が増加していることから、農業普及課から、農作業事故の実態や事故を防ぐためのポイント、熱中症予防などについて情報提供し、地域全体で農作業安全を進めるよう働きかけをしました。

組合員からは、「今年も食味コンテストで入賞できるような美味しい米を作りたい。」「美味しい米になるよう追肥の量には注意したい。」などの声があり、良食味米生産に対する高い意欲が感じられました。

農業普及課では、今後、収穫適期の情報提供や食味値分析などを通じ、良食味米生産の取組みを支援していきます。（地域支援係）